

神話の郷に伝わる神の舞が今宵!

出雲神楽



岩屋戸にお隠れになった天照大神のお出ましを願う「アマノウズメノミコト」の舞が神楽の起源とされています。古事記、日本書紀の「神代」には、出雲神楽の元となっている神話が多数挿入されています。その多くは雲南市を流れる斐伊川流域にまつわる神話です。雲南市内には、現在多くの神楽社中があり、地域の郷土芸能として脈々と受け継がれています。

演目紹介 ひのかわ 簸之川大蛇退治 おろちたいじ

すさのおのみこと 須佐之男命が、斐伊川の川上で、一人の姫を中に嘆き悲しんでいる老夫婦に出会った。この川上に住む、頭は八つ、尾は八つの恐ろしい大蛇おろちに七人の姫を取り吞まれ、この稲田姫を取り吞まんともうすぐやってくるという。須佐之男命は大蛇を退治しようと、強い酒を造り、八つの酒舟に満たして家の周りに置いた。やがてやって来た大蛇は、酒を一滴も残さずに飲み干し、酔っ払って寝てしまう。須佐之男命は十握の剣を持って大蛇をずたずたに切り裂き、尾より天叢雲剣あまのむらもりのつらぎ(後の草薙の剣)を取り出した。そして稲田姫を思い、「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠に 八重垣つくる その八重垣を」と和歌を詠み、須賀の地(現在の雲南市大東町須賀)に宮殿を建て、末永くお暮らしになりました。



須佐之男命
すさのおのみこと



稲田姫
いなたひめ



老夫婦
足名稚命・手名稚命
あしなづちのみこと てなづちのみこと

10月の金・土・日曜、祝日開催  20:30~21:10

10/5 	佐世神楽 <small>社中</small>		10/19 	山河内神楽 <small>社中</small>	
10/6 	山王寺 和野神楽 <small>社中</small>		10/20 	薦沢神楽 <small>社中</small>	
10/7 	山河内神楽 <small>社中</small>		10/21 	佐世神楽 <small>社中</small>	
10/8 (祝) 	山王寺 和野神楽 <small>社中</small>		10/26 	山王寺 本郷神楽 <small>社中</small>	
10/12 	佐世神楽 <small>社中</small>		10/27 	薦沢神楽 <small>社中</small>	
10/13 	山河内神楽 <small>社中</small>		10/28 	山王寺 本郷神楽 <small>社中</small>	
10/14 	山王寺 和野神楽 <small>社中</small>				